

農業開発研究会報 第1号

サクーにフィールドサーバー設置

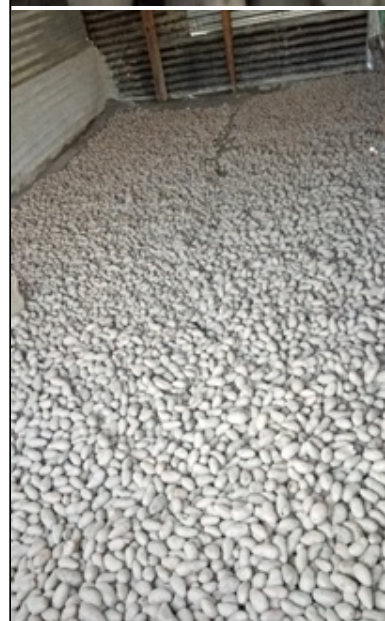
農業開発研究会は、2015 年から 2017 年 3 月まで JICA 草の根事業「ネパール・サクー村における農業の適正な使用技術指導」で、気象条件によってバレイシヨ疫病発生が異なること、農業使用のタイミングと散布量を適正化できることを農家の気象観測を通して理解してもらいました。これを一歩進め、気象観測を自動化し、インターネットでサクーと札幌・帯広で農業情報を共有する実証試験を始めました。疫病予測法として FLABS に加えて、BLITECASTなどを適用し、夏バレイシヨと冬バレイシヨの作型にあわせた適正な農業使用を目指します。

2018 年 9 月 17 日にスーツケースに Nexag の主要部品をパッケージすると重量は 24kg になりました。タイ航空の重量制限が 30kg でするので、フレームはサクーを訪問する学生国際協力団体結い Yui~のメンバーにお手伝いいただきました。10 月 3 日にスンダールさんの圃場へ設置(3 頁写真)、最初は順調でしたが、現地調達のバッテリーの電圧不足が生じ、データ回収率が低下しました。開発メーカーと協力し、12 月、山口先生がサクー滞在中に通信モジュールの改良などを行いました。現在、気象などのデータを問題なく受信しております。バレイシヨ疫病予測のほか、遠隔圃場の農業情報通信利用方法の開発を続けます(Nexag アクセスの会員パスワードは長南まで)。

サクーだより

2018 年のサンカラプール農業グループ(スリエ シュレスタ代表)の活動状況を、スリエさんの撮影写真で紹介します。農業グループは、サンカラプール市全域から農民を招いて、農業技術研修会を開催するなど、新しい市の基幹産業としての農業の重要性をアピールしています。田植えには市長夫妻も参加グループが生産した 2018 年冬バレイシヨ種イモの購入者には、サンカラプール市から価格補助金が支出されました。

サンカラプール農業グループは 2016 年にカトマンズ区の農業開発事務所(DADO)から活動グループの認可を受け、マイクロチューバPBSを購入、本格的な種イモ生産を開始しました。現在、グループの認可はサンカラプール市へ移管され、市の認可団体として活動しています。



目次

サクーにフィールドサーバー設置	 1
サクーだより	 1
写真でみるサクー	 2
疫病観測および診断	 4
2018 年度活動カレンダー	 4.
JICA 草の根事業への申請	 4.
後記	 4.



← これが PBS(マイクロチューバ)です



2019 年の冬バレイショについては農業グループが PBS(マイクロチューバ)から増殖した種イモ、総量 25ton を完売したそうです。グループは冬バレイショの作付面積を 40 ロパニ(2ha)に拡大しました。

スリエ、スンダール、ジュルムさんらのリーダーシップのもと、生産組織化への一歩を踏み出しました。



サンカラプール農業グループが主催したイベントで、「持続的な農業」を市中でデモンストレーション



スリエ、アニタさんが International Farmer Innovation Day「農民による革新の日」セミナー(11月7日、カトマンズ開催)でサクーのバレイショ生産組織化について発表しました。

水稲 2018 年 5 月～

耕起



移植(6月)



除草(7月)



サンカラプール市長・副市長がサクー
農業グループの活動を視察

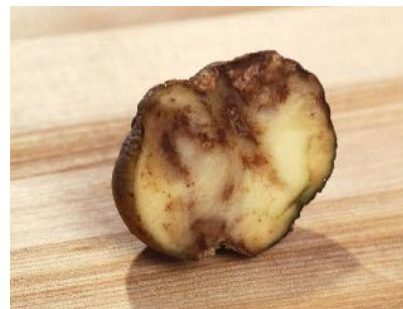


スンダール圃場に自動気象観測装置の設置(9月)

バレイショ疫病などの観測

2018 年 12 月 9 日から2週間、山口先生にサクーのバレイショ生産・疫病状況調査をお願いしました。自動気象観測装置の電源となる現地調達バッテリーの不良のため、通信モジュールの入れ替え作業に多くの時間が費やされてしまいましたが、先生の観察では、ウイルスも散見されつつあり、いっそうの種イモ生産管理が必要となります。

2019 年1月6日、スリエ、アニタさんからバレイショ写真(右)がスマホで送られてきました。山口、近藤則夫、増田先生によって疫病 Late Blight の症状と判定され、折り返し、注意すべきことをサクーへ返信することができました。皆さまのご協力に感謝します。



2018 年度の主な活動

- 2018 年 4 月 帯広市で自動農業気象観測装置設置試験
- 2018 年 6 月 総会
- 2018 年 8 月 自動農業気象観測装置の回収
- 2018 年 9 月 自動農業気象観測装置をサクーに設置
- 2018 年 12 月 サクーにおけるバレイショ疫病状況調査
改良通信モジュールの再インストール
- 2019 年 1 月 北海道大学農学部にて活動報告(飯田会員他)
理事会
- 2019 年 3 月 理事会



JICA 草の根技術協力の申請について

2019 年度の JICA 事業申請の企画に先立ち、2018 年 11 月に福島他 2 名は JICA 主催のプロジェクト企画研修に 3 日間参加しました。その際に、研究会の案件構想を研修講師に相談する機会をえました。ネパール側のカウンターパートを誰にすべきかなど、いくつかの課題が指摘され、有意義な研修となりました。

編集後記

テニスの大坂なおみさんの「3歳」発言は、挑戦者のメンタル管理の難しさを、彼女自身の言葉でわかりやすく表現していて、とても印象に残りました。研究会が取り組んでいるネパール・サクー村でのバレイショ疫病に対する適正な農業使用技術の指導では、農業の最先端知識の理解とメンタル両面で3歳と自覚せざるを得ないことが多くあります。農民の日々の圃場観察力という原点に返り、農家の目線での対処法を提供することが重要との思いを強くしております。

会報1号はスリエさんが撮影した写真を中心に、JICA 草の根事業終了後のサクーのカウンターパートの活動を紹介しました。ネパールの農民から送信された作物の病害写真をもとに、即刻、遠隔の地、札幌で情報整理し、病害を判定するプロフェッショナルとしての姿勢が、研究会のプラットフォームのカタチを作りつつあります。当面はフィールドサーバーを有効活用し、圃場レベルのデータを農民と共有し、持続可能な農業技術移転の足元を固めることにしましょう。

会員の皆様には、引き続き、積極的に活動に参加いただきますよう、お願いいたします。(F.O.)